

みなべ町



梅



ウグイス



ウバメガシ

HPアドレス <http://www.town.minabe.lg.jp/>

町名の由来

「みなべ」は古くは、御名部、三名部、三鍋などと書かれていて、万葉集には「三名部の浦」と出ています。「南部」の名称は、奈良時代734年の木簡に「紀伊国日高郡南部郷」の文字が見られ、また1175年の高野山文書には紀伊国の「南部荘」という名称が見られることから、長い歴史の中で継承されてきた名称です。

南部町と南部川村が合併する際、新町の名称に関する住民アンケートの集計結果で「みなべ町」が35.4%と最多であり、漢字の「南部」からひらがなの「みなべ」にすることにより新しい名前となり、新たなスタートがきれると、「みなべ町」になりました。「みなべ」の名称は、わかりやすく、使いやすく、優しい印象を与えます。

町章の由

全国から応募のあった1,998点の中から、合併協議会（平成16年5月31日）で投票により決定しました。清冽な水と緑をみなべ町名産の梅花のフォルムにあしらい、カラーは山のグリーン、海川のブルーを表しています。

町の紹介

2004（平成16）年10月1日、南部町と南部川村が合併して誕生したみなべ町は、県中央部に位置し、黒潮の海に面した気候温暖な町で、日本一の梅の産地です。役場には全国で唯一のうめ課が設置され、梅の消費宣伝を担当しています。またウバメガシなどを原木とする当地特産の「紀州備長炭」も多く生産され全国に出荷されています。

海岸線は田辺南部海岸県立自然公園に指定されており、梅林や鹿島などの景勝地のほか、世界遺産でもある熊野古道が町内を通り、熊野九十九王子社の一つである岩代王子社、千里王子社、三鍋王子社などがあり文化遺産にも恵まれています。

また、熊野古道のコースの中で唯一海沿いである千里の浜には毎年多くのアカウミガメが産卵に上陸しており、その産卵頭数は本州一となっています。

早春には観梅、夏には海水浴、磯釣り、観光の魅力もいっぱいです。



梅の花

しらはま 白浜町



はまゆう



しらさぎ



さくら

HPアドレス <http://www.town.shirahama.wakayama.jp/>

町名の由来

昭和のはじめ、大阪商船（会社）が、関西で瀬戸鉛山村を「白浜」の名前で宣伝していたこともあり、1940（昭和15年）3月1日に旧村名にこだわらない新しい名前「白浜町」と決定しました。また、2006（平成18）年3月1日に白浜町と日置川町が合併した際にも、十分検討して「白浜町」という名前に決まりました。

町章の由来

白浜町の頭文字を図案化。三角形は町の限りない発展を、中心の円形は太陽を、外の円形は和を表現しています。今後も勢いよく発展する町の姿を象徴したものです。

町の紹介

町域には田辺南部海岸県立自然公園、熊野枯木灘県立自然公園、大塔日置川県立自然公園が含まれます。また、東西に富田川、日置川が流れ、本流とそれらに注ぐ大小16の支流には豊富な水と多様な生物が生息しています。海・山・川の豊かな自然に恵まれた町です。

白浜の歴史は古く、多くの名勝や遺産があります。白浜温泉は、飛鳥、奈良時代から天皇や貴族をはじめとした多くの人々が来泉し、「牟婁の湯」「紀の湯」の名で知られた三古湯のひとつです。また、世界遺産に指定された熊野古道があり、その歴史と関わりの深い絵画や仏像などの文化遺産が多く保存されています。日置川河口には中世の歴史の表舞台にも登場する安宅水軍の本拠地があり、その城跡は現在も調査されています。近世では菱垣廻船を中心とする海上交通の中継点としても栄えてきました。

現在は人口が約2万4千人（平成20年）。年間約330万人（平成19年）の観光客が訪れ、豊かな自然と歴史を生かした観光に関わる産業が盛んです。富田平野や日置川流域では水稲、野菜、花卉、果樹栽培が行われています。

白浜町は、「輝きとやすらぎと交流のまち 白浜～住んでよい、訪れて楽しいふれあいのまちづくり～」を町のテーマとして、住民一人ひとりが日々の生活を快適に、健康で安心して暮らせる環境づくりを進めています。



円月島

かみとんだ 上富田町



さくら



やまもも

HPアドレス <http://>

紀州口熊野マラソン

町名の由来

町内の中央部を富田川が流れています。川は延長40.5km、流域面積247km²で中下流域は平地が多くなっています。

古くは、岩田川と言われていましたが、中世、この地を支配した山本氏が治山治水に力を入れ、河川改修したことで、文字通り、「富田」と呼ばれる穀倉地帯になりました。

1958（昭和33）年、富田川町と上富田町が合併して上富田町となりました。

町章の由来

上富田町の「上」に「と」の文字を組み合わせたもので、「円」は町の調和と団結、「両翼」は町の飛躍と発展をあらわしています。

町の紹介

上富田町は富田川の中流域に位置し、早くから農耕が発達したらしく、弥生時代の遺跡が多くあります。注目される遺跡として、一ノ瀬遺跡があり、また、岩崎地区から銅鐸が出土しています。

平安末期から鎌倉中期にかけて、上皇や貴族・庶民が熊野三山に参詣しました。その道すじは、富田（岩田）川沿いを東へのぼるものであり、この中辺路街道には、西行法師の歌で有名な八上王子があり、稲葉根王子、岩田川を渡って一の瀬王子、さらに東には鮎川王子がありました。

他に、中世、この流域の支配者であった山本氏関係の遺跡等もあります。神社仏閣、遺跡等の保存が進み、地域の人たちの見学に、或いは児童生徒の教材になっています。

産業面では、水田に米を作る人、都市近郊の野菜作りにせいを出す人がいて、新鮮な農作物を地域に提供しています。丘陵地では、古くから温暖な気候を利用して温州みかんの栽培や梅栽培が行われていて、梅を加工し、販売する農家もあります。

すさみ町



はまゆう



めじろ



しい

HPアドレス <http://www.town.susami.lg.jp/>

スキューバダイビング

町名の由来

すさみ町の沿岸は黒潮の流れが速く、南～西寄りの風が強く吹き付けるため、動力船ができるまでは航海の難所でした。こうした「荒（すさ）ぶ海」が時を経て「周参見（すさみ）」に転じたといわれ、1955（昭和30）年の町村編入合併によりひらがなの「すさみ」町となりました。

町章の由来

すさみ町建設の理想である平和、協調、躍進を象徴しています。全国からの273点の図案応募より当選した本町章は、全体の形は「す」の字、4つ角は編入合併した4町村の協調、円形は平和、すは大鳥、千里の外に向かって跳躍せんとする印象が強いものです。

町の紹介

すさみ町は、深緑の山々と清らかな川や海に囲まれた自然豊かな町です。町内の人口が約5,000人で、人数の半数が65歳以上の集落となる地域が多く、高齢化が進んでいます。

自然環境を活かした農林水産業と観光が地域経済の支えになっています。海中ポストで知られるスキューバダイビングや、イノブタダービーなどの地域のイベントも開かれています。

地域における高齢化が進むなかで、地域密着型の医療制度の実施、福祉事業の充実、教育の振興に積極的に取り組み、町民一人一人が明るく、快適に暮らせる町づくりを推進しています。